

若い企業研究者への言葉

企業の研究所は企業発展に寄与するために存在することは自明のことと思います。大学のように、研究成果を論文とすることが重要と考えるわけにはいきません。独立法人化によって、大学でさえ研究成果の事業化が重要視されるようになっていきます。研究開発された技術が実際に企業活動に活かされ、生産性向上に寄与し、利益に貢献して初めて意味を生じます。即ち技術は商品化され、事業化されて初めて企業としての価値を生みます。技術の商品化・事業化には多くの技術者・人材の協力、その商品を取り巻く全てのバリューチェーンの構築が必要です。

しかしながら、マーケットが大きく、商品寿命の長い、スイングの大きな商品を開発するためには、先ずは他社に無いオンリーワン技術の存在が必要です。オンリーワン技術を開発するためには先行的な目的基礎研究、独創的な発想が必要です。オンリーワン技術を開発する研究者は、研究者としての本質的な資質、実力を身につける必要があります。

研究に必要な資質は、未知の問題解決への好奇心と情熱です。これは既存技術を組み合わせ商品をとめるとか、当面の案件を処理するために技術をまとめるなどの短期開発行為とは大きく異なります。液晶でも半導体でも、その技術の進歩は目的基礎研究の積み重ね、解決不可能な課題への飽くなき挑戦によって行われてきました。建設業の研究者も、若い時代には一度はこのような本来的な研究に全身全霊を打ち込む経験をすべきだと思います。燃えるような情熱で、寝食を忘れて難問に挑戦してみてください。

「何を研究すべきか」を見極める力も重要です。そのためには先見性、直観力が大切です。10年先を見通して「これだ」と直観する力が大切です。先見性と直観力は密接な関係があります。これらの能力は、ある程度は先天的なもののようにも思われます。小さい頃からの環境も大きく影響するようにも思われますが、今からでも養うことは可能です。

そのための第一の要件は、素直に全ての現象を受け入れる心の状態を作ることです。フィルターのある心では直観力は発揮できません。第二には、物事をとことん追求し考える経験を積むことです。とにかく一生懸命やっていると突然「これだ」と言うものが出現します。何も考えていない人にはこのような状態は生じません。第三は、自らの足で色々なものを見、聞き、感じることです。国内だけではなく、海外をも積極的に歩き回ることです。これだと思って海外に見にいっても「なんだ、こんな事か」と思うことはありますが、「なんだ、こんな事か」と身体で認識・体感することが次の発想・直観につながります。第四は、良い話し相手、聞き手を見つけることです。発想は研究者自身が行う問題ですが、良い仲間や指導者は是非必要です。国内外を問わず良い伯楽を探してください。

先に述べたように、技術の商品化、事業化のためには多くの人材の協力が必要です。皆さんもいつかは商品開発のマネージャーになり、事業展開を担当し、あるいは起業家になっていくでしょう。しかし若いときには是非研究の本質を体験してください。

2005年10月

清水建設株式会社
常務執行役員 技術研究所長
工学博士 藤 盛 紀 明